

展示スペースあります

当センターにはギャラリーと化しているスペースがあります。もともとはスタッフが個人的に組み立てたプラモデルなんかを並べていた場所でしたが、利用者さんが自分で描いたイラストを並べ始めてから、そのように定着しました。

苦勞して作ったものや、見栄えのするものが出来上がったとき、それを誰かに見てもらいたいという気持ちは、誰にでも生じるものですよね。そうしたものがひきセンに展示してあれば、それは大体当然、ひきこもり当事者が作ったものとして認識されるのかもしれませんが、しかしながら、それだけが作品の意義ではないでしょう。あくまで作品の持つ背景の1つに過ぎません。



それは人間に対しても同じことで、例えば目の前にひきこもり当事者がいたときに、果たしてその人が“ひきこもり”であるという視点だけにとらわれて、その人と接することが適切でしょうか。

当事者の方やそのご家族の方と接するとき、最初から何かに当てはめることはせずに、目の前にいる一人の人間として接していきたいものです。

(武居)

「marugoto-home ひきこもり限定ぷち居場所」に参加してきました！

新潟市西蒲区では主に同区の社会福祉協議会が主となり、“誰でも行くことのできる安心できる第2の家・居場所”である「marugoto-home (まるごとほーむ)」が開催されてきました。6月16日にはひきこもり経験者だけが参加できる表記の会が開催され、ひきセンからも私と利用者さん1名が参加しました。初めての環境ということもあり利用者さんからは、緊張したという言葉も聞かれましたが、社協の職員さんや地域住民の「まるごとサポーター」の方が優しく話しかけてくださいました。

ひきセンは遠いし、中々行けない。——西蒲区在住の相談者から過去に伺った言葉です。ひきセンまでの距離は30km以上、電車でも片道1時間強を要し、運賃は往復で1000円以上かかります。遠隔地の方のひきセンへの来所の困難さは、地域の支援者の方も感じているものでした。これを受けて2019年から西蒲区では行政・福祉等の関係機関が集まり、ひきこもりや生きづらさ等を感じる方への対応を考える連絡会が開催されています。ひきセンとしても、出張相談や住民向けの研修会等を同区社協と協同で実施してきました。2021年9月8日(水)にも、ひきセンからの出張相談を予定しています。また、ひきセンでは西蒲区以外の区にある関係機関との連携も行っています。

(齋藤)



ぷち居場所には、ボードゲームや書籍が用意されていました